



第33期 2020年7月～2021年6月

「強い義務感を持とう！ 義務は全ての権利に伴う」

2020年 クラブ主題

何事も、楽しんでいきましょう

2020年 10月号

国際会長主題 価値観、エクステンション、リーダーシップ

アジア会長主題 変化をもたらそう

東日本区理事主題 変化を楽しもう！

富士山部長主題 ワイズだから出来る事が有る！
絆にやろうぜ！富士山部！

富士会長主題 何事も、楽しんでいきましょう

第33期クラブ役員

会長	高野 亨	監事	井上暉英
A副	小澤嘉道	監事	鈴木靖巳
書記	吉澤廣美	監事	増田 隆
会計	仲澤昭夫	担当主事	金井淳

今月の協調テーマ EMC/E (Extension, Membership & Conservation) : クラブ拡張
YES (Y's Extension Support) : 新クラブ設立活動支援基金

☆2020年10月例会中止☆

と き 2020年10月
と ころ ホテルグランド富士 (0545-61-0360)
受付
司会

1. 開会点鐘
1. 開会の挨拶
1. ワイズソング・ワイズの信条・
1. 東日本区理事・富士山部部長・会長主題の唱和
1. 会長挨拶
1. ゲスト・ビジター紹介
1. 食前の感謝
1. マイタイムアワー
1. 誕生日
1. 委員会報告
1. 監事・書記・会計・事務局報告
1. 出席率・スマイル報告
1. 閉会の挨拶
1. 閉会点鐘

HAPPY BIRTHDAY

岩辺富雄君 (15日) ・ 菊池初彦君 (20日)
次田升勇君 (25日)

9月例会

在籍会員	15名	例会出席者	10名	スマイル基金	10,000円	CS基金	1,177円
功労会員	1名	出席率	71%	スマイル累計	19,000円	CS累計	2,340円
担当主事	1名	ゲスト	0名	ビジター	0名	総出席者	10名

巻頭言

漆畑義彦

政権が変わった。マスコミは、けなしはするがほめることは少ない。特に政府・行政に対する意見は厳しさを感じる。我々は報道から情報を得ているから一緒になって批判してしまう。その結果良い点を見逃してしまい褒めることを忘れていたような気がする。家族に対して、社員に対して、友達に対して・・・気が付くと批判ばかりが目についている自分がある。自分は誰かに好かれたいという願望があるのに、好意は好意を呼ぶことを知っているのに・・・感謝の一言が出ない、思っていることが言葉に出ない。馬齢を重ねるとなおさら口うるさくなる。・・・ところで、世の中は急激に変化している。Zoom・ライン・スカイプなど多種多様なシステムが活用されている。弊社も時節柄、営業マンの来社が少なくなった。このシステムのお陰で資料の活用や製品のPRなど、より幅広く高度になっているし時間の節約にもなっている。ワイズ東日本区役員の方々の時代に即した活躍は目を見張るものがあります。諸会議や研修はより進化し内容が濃くなってゆくことが喜ばしく感謝しています。富士クラブも、チャンスと捉え勉強し時代についてゆきましょう。リモートでの対人関係とコミュニケーションをどのように育ててゆくかが課題ですが、まずはいやZoom飲み会でもしましょう。

9月例会報告

9月例会は仲澤ワイズの司会により、定刻より開催されました。小澤ワイズから開会の挨拶があり、高野会長の開会点鐘、会長挨拶がありました。引き続き本日出席メンバー全員の3分間マイタイムとなりました。トップバッターは吉澤ワイズです。9月号ブリテンに書いてあるように健康に留意し、散歩して体作りに励んでいる毎日だそうです。鈴木靖巳ワイズは運動があまり好きではなく、ラジオ体操をしてから仕事に出かけ、コロナなのであまり外出はしていないそうです。漆畑ワイズは体重が減ったので血圧が下がったそうです。そして東日本区に寄贈した樫村基金は医療関係に使っていただきたいと申し出ているが、9月の理事通信にはそのような報告が掲載されていないことを懸念していました。次田ワイズは仕事柄、市内のコロナ感染情報を差支えない程度にお話ししてもらいました。井上ワイズは現在、4か所の病院に通っていて、これからも健康に留意して過ごしたいと語っていました。増田ワイズは台風10号の進路予想の件で日本と韓国の進路予想が少し違っていたことで、両国が協力して予想をたてればより正確な進路予想ができて被害も最小限に食い止められるのではないだろうかと言っていました。岩辺ワイズは近頃貴重な魚、サンマの近況を商売柄、詳しく説明していただき参考になりました。そして、コロナの影響で富士市内の夜はゴーストタウン化しており寂しい限りだと嘆いていました。小澤ワイズは小骨が肛門付近に刺さり大変な思いをしたことをユーモアあふれる語り口で大いに笑いを誘いました。高野ワイズはタバコをやめて1か月たつそうです。最近はじめた散歩後のビールが美味しいそうです。仲澤ワイズはコロナで家に籠っているので何もすることが無く困っているそうです。以上全員からお話ししていただきましたが健康の話、コロナの話が主流を占めていたように思いました。続いて各報告に移り吉澤書記より9月の役員会は特に審議事項が無いので中止。9月26日の富士山部部大会の参加者は高野、吉澤、漆畑、井上、増田の5名という報告がありました。出席率、スマイルの報告があり、岩辺ワイズの閉会の言葉に続き高野会長の閉会点鐘で9月例会は無事終了しました。



健康について熱く語る吉澤ワイズ



ユーモアを交えて、小澤ワイズ



マイタイム中に電話！岩辺ワイズ



外出自粛中の鈴木ワイズ

理事メッセージ

理事通信4号より（抜粋）

東日本区理事 板村 哲也

ようやく秋を感じられるようになりました。8月14件、9月17件、10月11件、いずれも9月26日時点での区が契約しているZoomアカウントでの会議室の使用・予約状況です。コミュニケーションのあり方が変わってきたことは誰もが認めていることと思います。情報を人が頭の中に入れて電車に乗って会議場まで持ちこんでコミュニケーションを取っていたのが、技術の発達で電車も場所も必要なくなりました。これはコロナ禍以前から生じていることですが、コロナ禍中のビデオ会議で私たちが身に染みて感じるところとなりました。因みに「コミュニケーション」の意味は辞書では「伝達」となっていますが、語源はラテン語の「Comun」で、その概念は「共有する、分け与える、知らせる」です。様々な工夫をして活動しておられる最近の皆さまの様子をブリテンなどで拝見していますと、コロナにめげずというより、積極果敢に困難、逆風（向かい風）に立ち向かっておられる様子が伝わってきます。ご報告が遅くなりましたが、8月に富士クラブから、故樫村好夫ワイズのご遺言による100万円の寄付金を東日本区にて拝受致しました。改めましてお礼申し上げます。医療関係のCS活動の補助などにご活用ください。



暑さ寒さも彼岸まで(今年は咲き始めが遅かった)

担当主事 金井 淳

1920年、大阪YMCAが六甲山麓で日本最初の「教育的組織キャンプ」を実施して、今年で100年を迎えます。コロナ禍前でのデータではありますが、現在では年間を通じて約22,000人の子どもたちが全国各地でYMCAキャンプを体験しています。富士山YMCAでも年間500名を超える子どもたちが、キャンプを楽しんでいます（コロナ禍の今年も、感染対策を行い、約50名の子どもたちがキャンプを楽しみました）。今年、2020年度、小学校で新しい学習指導要領がスタートし、来年度以降、中学校・高校でも新しい学習指導要領による教育が始まります。この学習指導要領の中では「生きる力を育む」ために、「主体的・対話的で深い学び」としての「アクティブラーニング」の手法を用いた教育が求められています。中央教育審議会の諮問（2014）によると、「アクティブラーニング」とは、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」と定義されますが、私たちが100年続けてきた「教育的組織キャンプ」というプログラムは、まさしく「アクティブラーニング」の形であります。私たちが、幼児から高校生の子どもたちを対象に行っているキャンプでは、10人弱のグループが活動の基本単位となり生活を行います。その中では、小集団ならではの葛藤、様々なアクティビティへの挑戦など、多くの「課題」が意図的、または、偶然の中で生まれていきます。そして、それらを子どもたち自身が協働的に解決していきます。もちろん、子どもたちだけの力では課題を解決することは難しく、そのことをサポートする「ボランティアリーダー（指導者）」の力が欠かせません。「答え」を与えるのではなく、共に考え、導くことは、キャンプのボランティアリーダーだけでなく、教師が子どもたちに何かを教える際にも求められることです。学生の頃にボランティアリーダーを経験し、教師になる者が毎年多くいますが、この経験は必ず活かせることだと思います。100周年を迎えたYMCAキャンプで多くの人材が育ってきました。YMCAの「キャンプ」と「学校教育」がより接近し、その中で育った子どもたち、学生といった多くの人材が、より良い未来を作り出すことを願います。



富士山YMCAのキャンプで乗馬体験

東日本区直前理事 山田敏明

2019-2020の1年間、東日本区理事をさせていただき誠にありがとうございました。私はこの1年間、濃度の高い盛沢山な、いわば波乱万丈な時間を過ごすことができました。人生の中で、大変充実した期間でもありました。東日本区の役員を引き受けて下さった皆さまと、東日本区全員から頂きましたご支援、ご協力に感謝申し上げます。とりわく、ホームクラブの十勝クラブの皆さんにはたくさんのサポートを頂き、うれしい限りです。理事主題「勇気ある変革、愛ある行動！」を掲げ、1年間行動してまいりました。1年間の事業を振り返りますと、とてもこの文章では言い表しつくせませんが、簡単に列記させていただきます。特に、杜の都仙台にて2019年7月19～21に開催されました第28回アジア太平洋地域大会は、参加者811名を得、盛大に開催する事ができました。現地の復興が確実に前に進んでいることを参加者全員が実感することになりました。部会は、湘南、沖縄部が中止となりました。また二つの部が台風19号の影響で開催が延期されましたが、各地を訪問し、皆さまと交流させていただいたことは、貴重な体験になりました。台風19号・15号被災地支援では、ポジティブネットYMCA基金への連携をさせて頂きました。東日本区からは4,803,848円を送金いたしました。特に、アジア太平洋地域へのNDRFから5,000米ドル、台湾区27,930米ドル、RDEサミット275,000円など、国際の仲間から浄財を頂いたことは心に刻みたいと思います。「Change!2022」推進委員会が発足し、活発に議論されたことや、毎月のニュースの発行により、確実にメンバーへ会員増強の必要性が浸透しています。2月のシンポジウム開催でさらに勢いが増しました。第23回東日本区大会は中止を余儀なくされましたが、必ずこの状況を克服することでしょう。また皆さんと十勝で再会できることを心待ちにしています。生活スタイルが変わっても、「YMCAを通して、地域社会に奉仕する」私たちの旨は重要です。今後とも、皆さんで力を合わせて、ワイズ活動を進めましょう。現在はなかなかみんなが集まることもままならないので、「ワイズ必携」や「ワイズ読本」を読んで、ゆっくり考える時期かもしれません。今こそ自ら研鑽しましょう。

山田直前理事、1年間

お疲れ様でした。

ありがとうございました。

富士クラブ一同

富士山部部大会 9月25日富士山 YMCA



富士宮クラブの佐野加奈さんのバンドが華やかな音楽で富士山部部大会のオープニングセレモニーを飾りました。



部大会開催がコロナ禍で危ぶまれていましたが、伊藤部長の寛大な心と、参加者 46 名の危機管理徹底の下、無事開催の運びとなりました。



大会を記念して各クラブ毎ブルーベリーの植樹をおこないました。ワイズもブルーベリーも早くなるように祈りを込めて・・・。



楽しみにしていた昼食懇談会、宮 BBQ の始まりです。朝霧 A 5 サーロインステーキや富士宮焼きそばの登場です。各クラブ毎にテーブルが用意されています。



3つの大皿に盛られたお肉、野菜、魚介類は見事なものでした。これが宮 BBQ か、と目を見張りました。早速お肉を網の上に所狭しと並べ、立ち上る白い煙に目を瞬かせ、焼きあがるのをまだかまだかと待っている様子はまるで幼子のような様子でした。コロナ禍のステイホームで暫くこのような集まりが無く、ワイズ活動も中止、中止の中でのこの大会は、久しぶりにワイズ活動の喜びに浸り、これからのワイズ活動の指針になるものと確信しました。これからの時代はコロナと共に生活しなければなりませんのでコロナ禍以前に戻ることはないでしょう。生活様式も変わってきますが、ワイズ活動も今までのようにはいかないと思います。活動中止を選択するのではなくメンバーで知恵を出し合い有意義な奉仕活動を少しずつ計画し、実行していくことがこれからは大切ではないでしょうか。(増田 記)

YMCA だより

富士山 YMCA 金井 淳

9月28日、富士山 YMCA でも富士山の初冠雪を見ることができ、酷暑の夏の終わりを感じることができました。富士山 YMCA は、Go To キャンペーンの対象宿泊施設となっており、開始以降多くのお客様が補助を受け、富士山 YMCA にご宿泊をいただいております。お越しいただいたお客様には、富士・富士宮地域の魅力、YMCA の魅力をお伝えし、再度お越しいただけるよう、心を込めてお迎えいたします。



富士山 YMCA から望む富士山の初冠雪

